

## 第32回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成16年7月21日(水) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

### 3 内 容

(1) 研究発表 (15:00～15:40)

・木下 智史 法科大学院教授

発表テーマ「法科大学院教育と地域に根ざしたリーガル・サービスの提供」資料1

・田村 裕 工学部助教授

発表テーマ「ゼラチンの新たな繊維化技術－常識はずれの繊維化手法－」資料2

(2) 質疑応答 (15:40～16:00)

(3) 学内状況説明・情報交換 (16:00～16:30)

① 2005年度入学試験の実施概要について 資料3

② 高槻市及び吹田市との地域連携に関する協定締結について 資料4

③ 関西大学法学セミナーの開講について 資料5

④ 夏休み教員研修講座の開催について 資料6

⑤ 夏のサイエンスセミナーの開催について 資料7

⑥ 博物館「なんでも相談会」の開催について 資料8

⑦ 第2回ソシオネットワーク戦略研究国際会議の開催について 資料9

⑧ 国際公開シンポジウム「学校教育におけるメディア活用」の開催について 資料10

⑨ 関西教育メディア研究協議会 第5回夏期特別研修会の開催について 資料11

⑩ おおさか文化セミナー(平成16年度後期)の開催について 資料12

⑪ インテリジェントアレー専門セミナーへの講座の提供について 資料13

⑫ 本学学生のアテネオリンピック出場について 資料14

### 4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 斉副学長、広兼道幸学長補佐、木下智史法科大学院教授、  
田村 裕 工学部助教授、藤本清高広報課長

### 5 参考資料

(1) 関西大学通信 第319号

(2) FDフォーラム No.7

(3) 技苑 No.118

(4) 図書館フォーラム 第9号

(5) 先端科学技術推進機構リーフレット

(6) 社会人のための関西大学生涯学習ガイド 2004

(7) 親子で語るキャリアデザイン読本

(8) エクステンション・リードセンター講座案内 2004

(9) 法科大学院学生募集要項

(10) 関西大学総合案内 2004

(11) KU SCRAPBOOK Vol.10

以 上

## 法科大学院教育と地域に根ざしたリーガル・サービスの提供

法科大学院教授 木下 智史

法曹養成のための専門職大学院、法科大学院が今年度より発足し、関西大学でも約140名の学生が法曹への道を目指して意欲的に取り組んでいる。法科大学院制度は、「法の精神、法の支配がこの国の血肉と化し、『この国のかたち』となる」ことをめざした「司法改革」の一環として構想されたものであり、法科大学院が、身近に法的アドバイスを受ける機会の乏しい「弁護士過疎」問題解消のために取り組むべきことは当然の社会的責務ともいえる。今年度、関西大学法科大学院の教員を中心に、関西大学重点領域研究「法科大学院における法実務と法学教育の結合の試み：地域に根ざしたリーガル・サービスの提供」が取り組まれている。この研究プロジェクトは、弁護士過疎地における公設弁護士事務所の活動や弁護士会による「地域司法計画」の取り組みについてのシンポジウムを開催するとともに、弁護士過疎地である島根県大田市に、法科大学院の教員と学生が出かける出張法律相談などの活動や、インターネットを利用した遠隔地法律相談についての研究をすすめていく。



愛知県のご出身。京都大学大学院法学研究科で佐藤幸治教授のご指導を受けられたのち、1986年度から神戸学院大学法学部に奉職され、2003年度、本学に移籍された。アメリカ憲法研究がご専門で、団体の人権、ステートアクション、フェミニズム論、民主主義論など、多岐にわたる分野で注目すべき論文を發表されている。そのアメリカ憲法研究の確かさは、90～92年カリフォルニア大学ローゼンター客員研究員、98～99年ヴァージニア大学ロースクール客員研究員(安倍フェロー)という豊富な在外研究歴に裏付けられたものであろう。常に日本法への視座を堅持しつつ進められている教授のアメリカ憲法研究は、法科大学院での教育にも充分生かされるものと期待される。

お人柄は、温厚な癒し系。ご趣味は、テニス、山登り、コンサートと幅広いが、最近は何れもご無沙汰気味なのが残念とのこと。

## ゼラチンの新たな繊維化技術－常識はずれの繊維化手法－

工学部助教授 田村 裕

ゼラチンは、動物の皮膚や骨に含まれる繊維性タンパク質であるコラーゲンを加水分解して得られるタンパク質である。医薬、食品、写真分野に用いられてきたが、近年のBSE問題やデジカメの普及による印画紙・フィルムの需要減少のため、新たな用途が求められている。

様々な物質の繊維化に取り組んできた私はゼラチンの繊維化に興味を持ち、まず湿式紡糸<sup>1)</sup>を検討したが、有機溶媒を使用する上に繊維強度は弱いことから、満足できる結果は得られなかった。そこで、蚕は体内に貯蔵した絹タンパク質水溶液を吐糸口から吐き出して優れた繊維（絹）を作っていることを参考にしてゼラチンの乾式紡糸<sup>2)</sup>を試みた。その結果、ゼラチンの50%水溶液を細いノズルから空气中に押し出し、それを巻き取るだけの簡単な操作で光沢に富む繊維が得られた。また架橋剤の種類や架橋の方法をコントロールすることで、耐水性や繊維強度をコントロールすることができた。

本方法は繊維化学的には常識はずれの手法であるが、水とゼラチンのみから非常に簡単な方法で繊維化でき、湿式紡糸で得た繊維の約20倍の繊維強度を示した。低環境負荷な方法であることから実用化への可能性を有していると思われる。

- 1) 戸倉清一，田村 裕，ゼラチン繊維，及びその製造方法，及びゼラチン繊維集合体，及び生体吸収性材料，特許第 3086822 号
- 2) 戸倉清一，田村 裕，伊藤 昇，ゼラチン繊維とその製造方法，特願 2003-401583



山口県は秋吉台の生まれ。1978年山口大学工学部工業化学科を卒業。さらに大阪大学工学研究科プロセス工学専攻に進学。83年博士後期課程修了と同時に「ビス(クラウンエーテル)を用いるイオン選択性電極に関する研究」で工学博士を授与された。83年4月関大へ助手として着任。88年専任講師、92年助教授に昇格。

94年度在外研究員として米国フロリダ大学で、非環状ジエンメタセシス重合の研究に従事され、本重合法を共役系高分子の合成に応用展開されている。また、キチン、キトサン、セルロースなどの多糖類の化学修飾、生合成についても精力的に研究されている。

趣味は野球、ゴルフであるが、なかなか機会にめぐまれず腕前の方は一進一退とか。また、バッハ、ベートーヴェンをはじめとした管弦楽曲がとくにお好きだそう。お酒の方は遺伝的に弱く、付き合い程度とのことである。